

令和3年6月29日

令和3年度病虫害防除技術情報（第5号）

和歌山県農作物病虫害防除所

ビワの新害虫ビワキジラミの防除対策について

県内各地でビワキジラミ（図1左、中央）の発生が認められています。来年の収穫に向けて、薬剤防除を実施して本種の発生密度を低下させましょう。

1. 発生が確認されている地域：県北部（かつらぎ町）～県中部（印南町）
2. 発生状況
 - 1) 本種は平成24年に徳島県で発見された新種の害虫です。本県では平成29年に日高郡由良町の黄色粘着トラップで初めて確認されました。その後、平成30年に由良町、令和元年に海南市、有田郡有田川町、日高郡印南町、令和2年に有田郡湯浅町、令和3年に伊都郡かつらぎ町のビワ樹において生息が確認されています。
 - 2) 海南市下津町における本年5月の発生ほ場率は98%で前年（55%）より増加しました（図2左）。
 - 3) 湯浅町における本年5月の発生ほ場率は75%で前年（25%）より増加しました（図2右）。
 - 4) 本年の果実に被害（果実表面に付着した本種の排泄物に「すす」が発生、図1右）が多く認められました。



図1 ビワキジラミとその被害（左：幼虫、中央：成虫、右：被害果実）

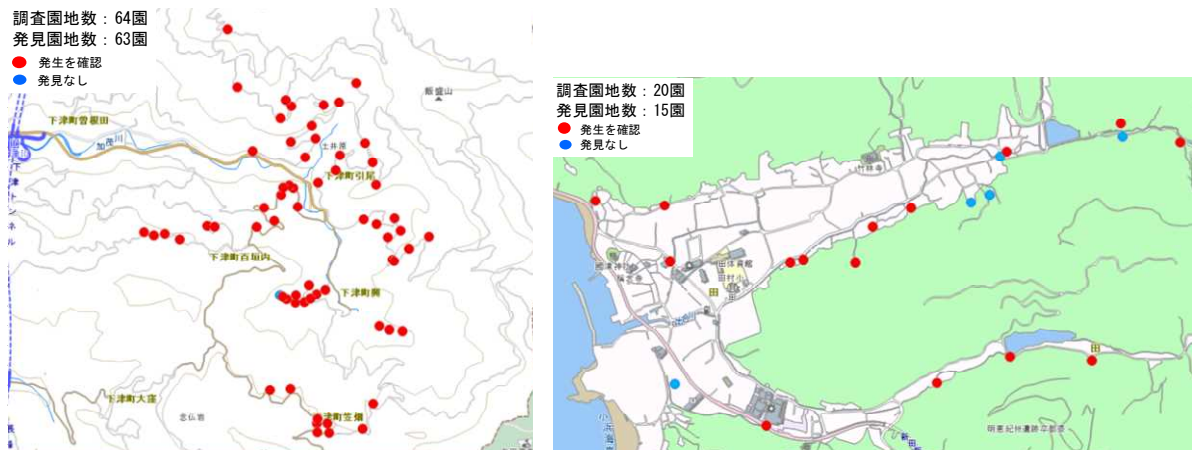


図2 ビワキジラミの発生分布（左：海南市下津町、右：有田郡湯浅町） 令和3年5月

3. 防除対策

4～6月は密度が高く、葉裏に成虫が群生して生息するため発生が確認しやすい時期です。また、幼虫の多発時期である3～4月や10～11月には幼虫が排出した白い排泄物が花蕾や果房などに付着するので、これを目印にすると効率的に発見できます。発生が確認された場合は表1を参考に以下の防除を行いましょ。

1) 6～7月（収穫後）

主に成虫が葉裏に生息しています。盛夏期（7月下旬～9月上旬）には樹冠内部で休眠し薬液がかかりにくくなるため、7月上旬までに成虫に有効な薬剤を散布してください。

2) 11月（開花初期）

成虫が花蕾に産卵し幼虫が増加する時期です。成虫と幼虫に有効な薬剤を散布してください。

3) 3月（袋かけ前）

幼虫が再び増加する時期です。果実の袋かけ前に幼虫に有効な薬剤を果実に確実に薬液が付着するように散布してください。薬剤散布から袋かけまでに期間があくと成虫が飛来し産卵するため、散布後速やかに袋かけを行いましょ。

4) 共通

花蕾の内部や果実のすき間などに隠れている幼虫にも薬剤が確実に付着するよう、丁寧な散布を心がけましょ。なお、ビワは枝葉の表面が細かい毛に覆われており薬液をはじくので、散布薬液に展着剤（商品名：まくびか）を加用してください。

表1 各種薬剤のビワキジラミに対する殺虫効果および使用基準

IRACコード ¹⁾	薬剤名	殺虫効果 ²⁾		希釈 倍数 (倍)	使用時期	使用回数
		幼虫	成虫			
1B	スプラサイド乳剤40	◎	◎	1,500	開花期まで	2回以内
3A	スカウトフロアブル	◎	◎	2,000	収穫3日前まで	3回以内
4A	モスピラン顆粒水溶剤	◎	×	2,000	収穫前日まで	3回以内
	スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	○	○	2,000	収穫前日まで	2回以内
21A	サンマイル水和剤	○	◎	3,000	収穫3日前まで	2回以内

1)異なるコードは作用機構が異なる

2)◎：補正死亡率90%以上、○：補正死亡率50～89%、×：補正死亡率50%未満

供試虫：幼虫は2021年4月19日、成虫は2020年5月28日に海南市下津町のビワ栽培ほ場で採集

処理日：幼虫は2021年4月20日、成虫は2020年5月29日

調査日：幼虫は処理3日後、成虫は処理7日後

薬液に30秒間浸漬して風乾したビワの新梢にビワキジラミを約10頭放飼した

対照として水道水に浸漬した新梢を用いて同様に生死を調査し、補正死亡率を算出した

(参考) 井上広光 (2015) : 植物防疫69, 97-101.

農食事業29022Cコンソーシアム (2020) : ビワキジラミ防除のための総合技術
マニュアル, 農研機構.

和歌山県農作物病害虫防除所 (有田川駐在)
電話 : 0737(52)4320